

# 経営品質アセッサーフォーラム 年次総会

2008年6月27日

# 本日の議題

1. 2007年度活動実績
2. 2007年度活動総括
3. 2007年度会計報告
4. 2007年度監査報告
5. 2008年度活動計画
6. 会則改定
7. 2008年度役員選任

# 1. 2007年度活動実績

# 学習活動実績 07. 7~08. 5

## (1) 実践事例の学習

実施日	講師	テーマ	参加人員	顧客満足度
7月20日	リコー: 田村均	CS推進の今までとこれから	93名	91%
10月19日	デンソー: 樋口和宏	デンソーにおけるマネジメントの質の向上	63	91
11月9日	イビデン: 佐竹洋	変革とともに歩く経営革新活動	44	86
1月21日	フィリップス: 高橋義郎	経営品質プログラムとBSCとISO9000の統合による実践的推進	78	82
3月19日	ブラザー工業: 大井裕之	相手目線での革新活動	35	87
4月18日	インクリメントP: 末吉進	インクリメントPの組織風土改革活動	47	81
5月28日	茨城県経営品質協議会: 鬼沢慎人	地域からの変革の渦を作り出す	39	100
	実践事例の学習 小計		399	88

注) 顧客満足度(総合) = 「とても良い」 + 「良い」。以下、同様。

## (2) 革新能力向上に役立つ手法の学習

実施日	講師	テーマ	参加人員	顧客満足度
9月19日	日本IBM: 浅野紀夫	調査データと分析～CS調査を事例に～	110名	91%
12月7日	法政大学教授: 伊藤隆一	人事マネジメントと精研式文章完成法テスト	24	78
2月22日	首都大学東京教授: 森本博行	顧客価値創造のビジネスモデル	63	74
	革新手法の学習 小計		197	81

学習活動全体合計	回数	延べ参加人員	総合満足度
(1) 改革実践事例の学習	7回	399人	81～100%
(2) 革新能力向上のための手法の学習	3回	197人	74～91%
全体合計	10回	596人	74～100%

# 実践活動実績

## ■ 第3期活動(1期・2期は試験的運営)

- 実施内容:参加メンバーによる革新事例の発表と改革実践方法の相互研鑽
- 一年間の活動(毎月開催)
  - 自社革新事例、取り組み課題の発表(全員)
  - 本質課題の把握や解決策を全員で討議し、その結果を自社の問題解決に生かす
  - 本音の議論ができるよう事例情報はメンバー以外に非公開で、議事録も作成せず
- 一年間の活動(毎月開催)
- 参加メンバー11名(理事も含め15名)
- 総合満足度 100%

# アセッサージャーナル発行実績

## ■ 第12号 2008年1月発行

特集 「経営革新の現場から」

全64ページ

発行部数:448冊

## ■ 第13号 2008年6月発行

特集 「経営革新の現場から」

全66ページ

発行部数:総会時発行のため現段階では未確定

参考) 年間発行部数(11号・12号計): 836冊 前年同期比 69%増

最新号は総会時発行のため当年度の発行部数(12~13号)は未確定。このため11~12号を参考のため記す。

# 運営活動実績

## ■広報業務（JQAA通信）

経営品質協議会認定セルフアセッサーへ配信（JQAC経由）

年次総会、研究会、ジャーナルの案内

・月度JQAA通信：第84号（2007年6月）～第95号（2008年5月）

・臨時JQAA通信：「ジャーナル」2007年6月、2008年1月

「研究会」2008年1月、2月、3月、4月、5月

☆ 今年度は研究会案内のための臨時号が増加した

## ■JQAAホームページの維持・管理 (<http://www.jqac.com/jqaa/>)

トップページ関連では、必要の都度、会則、役員名簿、年次総会案内、理事公募案内などを更新。更に、JQAA通信の発行に伴い、JQAA研究会や実践分科会の開催案内、開催実績の紹介、ジャーナルの内容紹介及びJQAA通信のバックナンバーを毎月更新。

## ■運営業務

- (1) 当該業務に詳しい理事の協力を得て個人情報保護規定の整備及び公表
- (2) 会計業務
- (3) 研究会、理事会等の施設の予約及び会場設営



## 2. 2007年度活動総括

# 全体総括

1. アセッサーの実践能力向上ニーズに応えるため三つの活動を重点的に実施(右図)。特に今年度実質スタートした実践部会活動が好評を得、新たな活動の柱として期待される。

2. これらの活動を効果的に実施するため各部会の組織運営能力の向上と相互連携強化を図った。

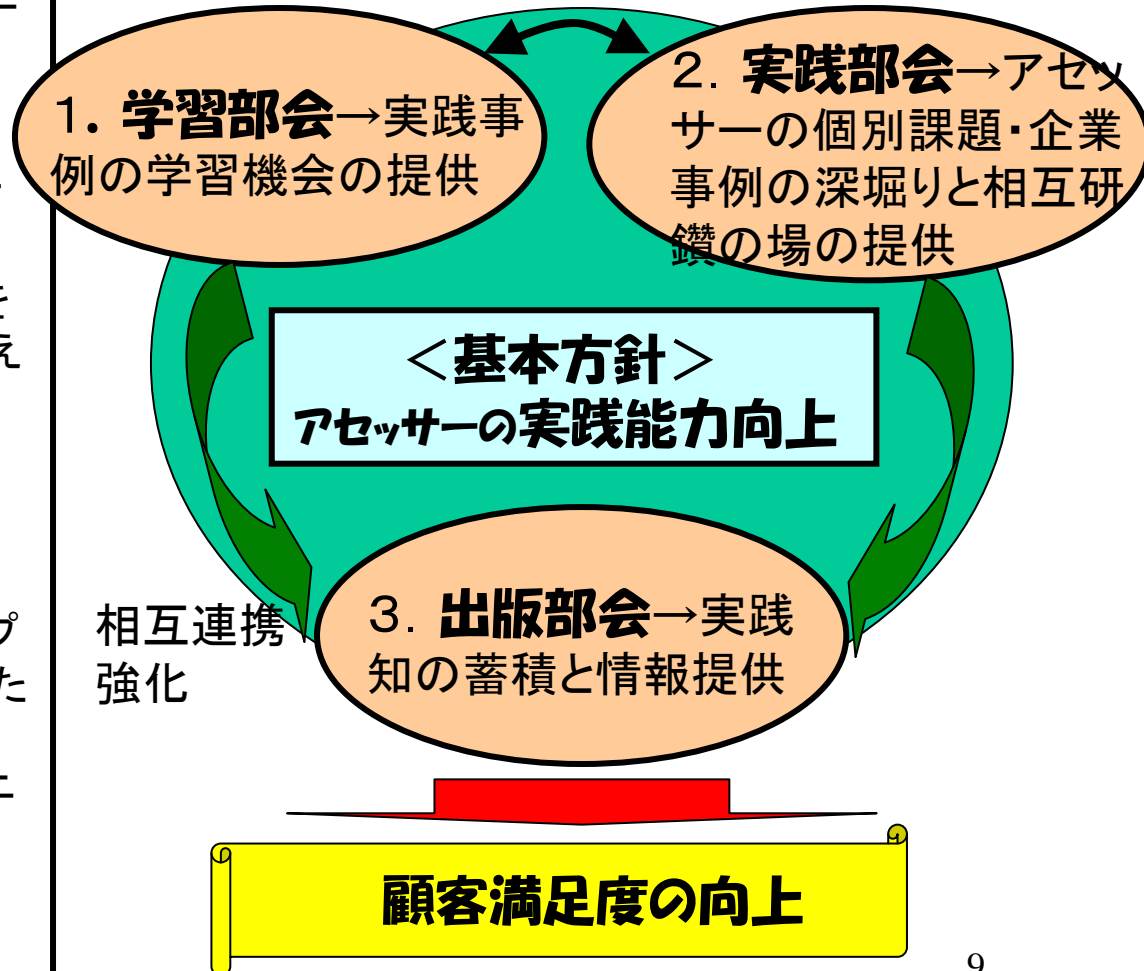
3. こうした活動により高い顧客満足度を得ることができ、アセッサーの期待に応えることができた。

- 学習部会総合満足度 平均86.1%
- 実践部会総合満足度 100%

## 4. 今後の課題

- 経営革新の成功のためには経営トップ層の取り込みが不可欠であるが、こうした活動までには至らなかった。
- 環境激変の中でアセッサーの新しいニーズへの積極的な取り組みが重要に
- 組織運営力の更なる向上と各部会間の連携強化による効果的活動推進

## 基本方針と三つの活動



# 学習活動総括

## 重点活動方針→アセッサーの次の二大ニーズへの対応

＜重点ターゲットの明確化→経営革新活動を推進・支援するアセッサー＞

1. 実践事例(成功事例)の学習
2. アセッサーのための革新手法の活用に関する学習

### 1. 活動結果

- 重点活動方針の明確化、顧客ターゲットの明確化、活動プロセスの見直し、満足度指標の定着化等組織運営能力の向上を図り、計画的・組織的活動ができるようになった
- この結果、講義満足度で87～100%、総合満足度で74～100%とアセッサーの高い支持を獲得することができた
- 重点ターゲット(経営革新の推進・支援者(約5～7割))の支持を得られたと判断される

### 2. 今後の対応課題

- 経営革新活動が企業に浸透し、定着していくためには現業部門実行責任者の取り込みが重要である。業種的には製造業に止まらず非製造業分野への拡大・浸透が重要である。一方で環境激変の中、アセッサーの新しいニーズを積極的に掘り起こし、これに対応していくことが必要になっている
- 部会活動に活動の評価指標を試験的に取り入れつつあるが、この定着化を図り、より高い組織運営能力の向上を目指し、アセッサーの高い期待に応えていく必要がある

# 実践活動総括

重点活動方針 （従来は試験的であった実践部会活動の本格的立ち上げへ）

1. 担当理事をおき、経営改革実践活動として部会運営の定着化を目指す
2. アセッサーの革新活動の支援を目指す

## 1. 活動結果

- 参加メンバーは様々な推進課題に直面しているが、相互研鑽を通じて改革の目的意識や本質的課題を再認識し、実践にむけた解決のヒントを掴み取る場であり、同時に共通の目的意識を持つメンバー間の意見交換・ネットワーク拡大の場であったと言える。
- アンケート結果からは「このような本音の議論ができる場は他にない」、「じっくり考えることができる貴重な場であった」、「本質的な課題を明らかにできた」、「様々な企業事例の実践的研究ができた」、「当事者課題を受け止め、実践的な内容で期待以上」「多くのすばらしいメンバーに恵まれ、沢山の刺激を頂き、非常に高い満足」等非常に好評であった
- この結果、総合満足度100%、継続開催希望78%と高い評価を得ることができ、所期の目的を達成することができた

## 2. 今後の対応課題

- 参加者の高い評価を得たことから、実践部会活動を「アセッサーのための改革実践に向けた相互研鑽の場」として定着化を目指していく必要がある
- このため更なる工夫・改善により部会活動の活性化を図っていくことが重要である

# 出版活動総括

## 重点活動方針

1. 発行部数拡大のための施策検討
2. 読者の満足度を把握する仕組みの検討及び結果の編集への反映
3. JQAA理事全員が関わる形でのジャーナルの編集作業

### 1. 活動結果

○ 「マガジン」から「アセッサージャーナル」への名称変更、実践事例を重点においた編集内容への充実、さらに地方協議会との連携強化、JQAA通信の拡充、販促チラシの活用等により発行部数の拡大に向け重点的な対応を図った。その結果、拡販効果が着実に出てきつつある。

- 効率的なオンデマンド出版実施に向け業務委託契約の明確化
- ジャーナル発行部数拡大に向けた理事の協力
- 研究会参加者へのアンケート実施。ジャーナルの認知度が低いことが判明した

### 2. 今後の対応課題

- 効果的な編集及び拡販活動実施のための購読者満足度調査の実施
- 発行部数拡大に向けた認知度向上、拡販活動の継続的な実施
- 出版活動プロセスの継続的な改善

## 3. 2007年度会計報告

# 2007年度 経営品質アセッサーフォーラム 会計報告書

2007(平成19)年6月1日～2008(平成20)年5月31日

(単位:円)

## 1. 収入の部

①出版活動(アセッサージャーナル)	858,990
②学習活動(研究会)	1,866,000
③実践活動	110,000
④雑収入(受け取り利息他)	96,938
	<hr/>
	計 2,931,928

## 2. 支出の部

①アセッサージャーナル 作成費(原稿料等経費含む)	268,046
②アセッサージャーナル 印刷費	953,755
③学習活動 会場利用料	915,740
④学習活動 講師謝礼(資料印刷代等経費含む)	653,380
⑤理事会会場費、理事経費	328,035
⑥その他雑費(事務用品、送料、振込手数料等)	128,767
	<hr/>
	計 3,247,723

## 3. 前期からの繰越金

1,482,095

## 4. 残高

1,166,300

## 4. 2007年度監查報告



## 監査報告書

2008年6月16日

経営品質アセッサーフォーラム  
理事長 土屋 元彦 様

監 事

真下 信雄

中井 克彦



### 2007年度会計監査

当監事は、経営品質アセッサーフォーラムの規約に基づき、2007年度(期間2007年6月1日～2008年5月31日)における、同フォーラム活動に関わる会計報告書を監査した結果、会計処理は公正と認められる手続きによって行われていることを確認いたしましたので、その旨、監査報告いたします。

以上

経営品質アセッサーフォーラム

## 5. 2008年度活動計画

## 2008年度活動の基本方針

アセッサーの経営革新実践能力の向上を支援し、効果的な革新活動ができるようにしていくことを目指す。  
このため次の三つの観点から活動に取り組む。

1. 経営革新に取り組むアセッサーの要望・期待の変化をタイムリーに把握する。
2. その要望・期待に沿える情報発信や自己研鑽の場を提供する。
3. 活動結果や満足度を分析しながら常に活動の質の向上に取り組む。

# 2008年度 活動計画

## 学習部会

顧客ターゲットを「経営革新活動を推進・支援するアセッサー」としながらも、今年度は更に「現業部門責任者」や非製造業分野の顧客層をも意識して革新活動の浸透を目指していく。このため以下の活動を展開する。

1. 成功事例の学習
2. 革新に有効な手法の学習

## 実践部会

「革新活動の実践に取り組んでいるアセッサー」を重点ターゲットとし、「アセッサーのための経営革新の実践に向けた相互研鑽の場」として定着化を図っていく。このため以下の活動を展開する。

1. 革新活動の推進上の課題や悩みを相互研鑽により解決を図っていく。
2. 経営革新の実践力を学び、実践行動力の向上を図る。

## 出版部会

「経営革新現場の情報」と「経営革新に向けたノウハウ」に重点をおいた昨年度の編集方針を引き続き踏襲し、以下の活動を展開する。

1. アセッサー・ジャーナルの内容の充実を図り、購読者満足度の向上を図る。
2. 発行部数拡大に向けた認知度向上及び拡販活動の仕組み化及び重点展開

## 6. 会則改定

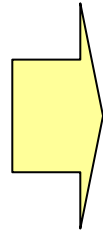
## 1. 第3条に関わるもの

(活動)

第3条 前条の目的を達成するために、この会は次の活動を行う。

現在

- (1) 研究活動
- (2) 出版活動
- (3) 教育活動
- (4) 運営活動(…調査…)



改定後

- (1) 研究活動
- (2) 出版活動
- (3) 運営活動(…文書管理…)

理由: ・教育活動は実質的な活動を行っていないため。  
・調査を情報管理に関する社会的要請に対応して文書管理に変更する。

## 2. 第8条に関わるもの

(理事定員)

第9条 この会は次の役員を置く。

現在

15名以内



改定後

17名以内

理由: 業務内容の充実を図るため。

## 7. 2008年度 役員選任

# 役員退任・新任案

## 退任する理事

土屋	元彦	理事長
渡辺	和眞	副理事長
中西	俊秀	研究
高崎	洋介	研究
下津	可知子	研究

## 退任する監事

真下	信雄
中井	克彦

## 新理事候補

大林	純子
大森	康世
黒瀬	晋
島宗	秀樹
西村	吉弘
藤代	光洋

## 新監事候補

渡辺	和眞
田丸	重男



以上

# 2008年度新体制案

理事長	雪竹 泰三
副理事長	内藤 貞人、新家 修
理事	
研究(学習部会)	<u>日下部 修一</u> 、永井 洋子、 <b>大森 康世</b> 、 <b>西村 吉弘</b>
// (実践部会)	<u>熊巳 弘一</u>
出版	<u>黒瀬 晋</u> 、矢野 敬人、中山 博、 <b>大林 純子</b> 、 <b>島宗 秀樹</b>
運営	<u>小楠 高弘</u> 、澤田 美樹子、 <b>藤代 光洋</b>
監事	<b>渡辺 和眞</b> 、 <b>田丸 重男</b>
実践部会	<b>土屋 元彦</b>

下線：リーダー    赤字：新任